



ひとことふたこと



町田 悦子 城山町

私は今80歳。城山団地40年、人生の半分をここで過ごしたことになる。音楽センターで10倍強の難関を突破。大喜び、それも束の間、3年以内に家に住むのが条件。借金して住宅ローン返済の綱渡り生活で、ママさんバレー婦人会に参加。友人知人が増え、班のバーベキュー大会等楽しい毎日。時は流れ今はフレイル認知症予防に忙しく、夫は救命救急隊のお世話になり、医療関係者の最新の技術と懸命の処置により命の綱渡り中です。発足時の役員からご苦労された歴代役員に感謝。

田中智恵野 城山町

早春の朝

令和4年3月6日、資源回収のアナウンス。低学年の可愛い声が聞こえてきました。ロシアのウクライナ侵攻の暗いニュースの中、思わずホッとする瞬間でした。城山町も四十年を迎え少子高齢化は否めません。緑豊かな団地ではありますがやはり高齢者には不便を感じる事も出てきます。市にも協力いただきながら活気ある城山町が続くようにこれからも町全体が一つの家族となれる様な気持ちで住み続けて行きたいと思います。

星 勝 緑と桜を守るボランティアの会

桜の植樹について

城山町の西南、県営高層から二丁目の入口までの山の斜面はくずや雑木が繁茂しひどい状況でした。そこで有志を募り山を整地し町民のいこいの場にする事としました。地ごしらえから始まって刈払いを行い、植栽準備を整え、市政百周年記念に合せて、桜を植え付けすることにしました。現在では『城山の桜』として有名です。写真等は城山町二十周年のあゆみにのっています。

吉村 博生 城山町

この城山町に住み続ける

40年前にこの城山町にやってきた。そして80歳台になった。4年前に、自宅をリフォームして老後に備えた。コロナ禍で町内での集まりが減り、「共通の記憶を失くすと関係も干上がる」(注)状態になった事を実感している。

多くの機会を作り出来る範囲でたくさんのつながりを持ち、「共通の記憶」を作っていきたいと思っている。(注)2022年4月14日付朝日新聞「折々の言葉より」 以上

大野ゆう子 城山町

自然豊かな城山町

山の中の自然歩道を、子どもたちと歩き木の実をひろったり桜の木にからみついたつるを切って歩いたり、休みの日にはよく遊びました。今も毎朝ごはんを食べる時に、山が見える所にすわって山の四季を感じています。特に春の山の緑がパッチワークのように、どんどんかわっていく姿に毎年感動をもらっています。一年を通して山の豊かさに、日々元気をもらっています。